

あると信するのであります。以上は私の心境の變化を促した感激の一端を申上げたに過ぎませんが、光陰は矢の如く沃野萬頃、黄金の波寄する收穫の秋も遠くはありませぬ、お互ひに健康に、この夏を過して重大な職責のために、眞面目に努力致さうではありませぬか

と有益な體驗を語り降壇した、かくてそれ／＼多大の感銘を興へて調査員の發表を終り

川崎課長 統計事務に關する斯うした催

しは此の部會では昨年と今回で二回ありましたが、御意見やら御希望やら承りますと諸君の御熱心が窺はれ、眞剣な叫びとして拜聴出来るのであります、熱心な努力がありませんければ今日この壇上に決してお話など出来るものではありませぬ、諸君が眉宇の間に時代目醒めて隣保扶助の實をあげ共同一致して一層正確なる材料を提供しようといふ氣魄が漲つてゐる、心から喜びを感じる次第であります、更に御精進を續けられますやう切望してや

まぬのであります、尚ほ本日のこの貴い御意見——御希望は『茨城統計』九月號に掲載されまして縣下四千の統計關係者をはしめ中央の各官省、全國各府縣にも配付されますこの叫びがかうして廣く多方面の方々に讀んでいただけますことは御同様にことに愉快に堪へない次第であります。

生れる子は男か女か

北浦沿岸のある村の婆さんは出生児が男か女かを鑑定するに頗る妙を得、實に百發百中との評判で、みごもる女たちで門前市を爲してゐるさうだが其秘傳はかうである

一、母の年齢が偶數で生れる児は、二年兒(前年に亘る)の場合は女兒、一年兒なら男兒
一、母の年齢が奇數にて二年兒の場合は男兒、一年兒なら女兒

一、母が二月節前前の生れならば年を一ツ加へて計算、夫婦の年齢を九で割り、割り切れる場合は女兒、然らざれば男子
一ツ試して見ては如何ですか

統計模範町村を訪ねて (4)

傳説の砂沼を中心に

メキ／＼伸びる下妻町

軽々に見のがせぬ人口の増殖

一 記者

私共が中學へ通ひ始めた頃、即ち下妻中學が建つたばかりの頃、あのあたり一帯は雜木林の連続で、狸どころか、白晝追剣が出た話を私たちはしば／＼聞かされたものだ。

昔おもへば 下妻町は 狸の住家
ほんほこほん ちゃんほこほん
十萬石のお城下

今ぢや名どころ町どころ
——横瀬夜雨作 下妻小唄の一齣——

中學校のグラウンド續きのお稻荷さんの境内に、呪ひの祈り釘が刺されてゐたのを、私たちは學校の晝休みに發見して大騒ぎしたことなともあつた。城主多賀谷氏の守護神といはれて靈驗今にいやちこに、花柳界の人々など朝に夕べに參詣して、昔ながらの鬱蒼たる社の森は艶めかしく彩られてゐる。



一砂沼の夏

事ほど左様に世は開けて行人を悩ました雑木林など今は跡方もなく、そこに停車場はあり、そこに中學あり、小學校あり、女學校亦近く、この秋にはモダンな役場もここに新築されるし、下妻驛を中心に自動車は東京、北條、古河、下館、小山、我孫子、境等八方に便し、縦の繁榮をこの一廓と、その沿線砂沼べりに集めてゐる。

二つ並んだ普門寺さんの

縁を結びの金佛さん 金佛さん

二百年前の鑄造にかゝり、古美術の珍と稱せられるこの金佛さんも、灯ともす頃から恐らくは狸や狐の遊びどころにされてゐたのではあるまいか、普門寺の隣りは元の小學校で、沼そひのこのあたり、聖なる育英の地、ゆるぎなき宗祖布教の名山であつたが、寺は焼ける。學校は移轉する、あとを賑はしたのは

狸の住家ならぬ

殆ど軒並みの紅提燈

世の變遷ほど計り知れないものはないが、下妻のこの變りやうはまた格別である、ちつほけな煤けた停車場に似氣なく、町はふくれて……否ふくれんとして種々なる計畫は立てられてゐる、之れをしも澤部町長努力の現はれといふか。

先づこれを人の動きについて考へてみる。

連用水の貯水池で、眞壁郡下關本、上妻、下妻等も亦この分水を得て水田に引いてゐる。

四時満々と水を湛へ

春は爛漫たる櫻花を

水際に映し、彼方遙かに神秘なる愛宕の森に相對す、盛夏の候、涼を追うて舟をやれば、菱の花、眞白く、はつくと水面に浮き、水色あくまで鮮かに、沼のぬし大蛇はこゝらあたりに住んだなど傳説にも残つてゐるが、今はボートは走る、モーター船は輕快な音を立て、湖心を行く、そして時たま、さざ波に乗せて絃歌が流れて来る、沼べりの茶畑にをろちの高駈を聞いたなんて、それこそ遠い昔の語り草に過ぎぬ。

この沼こそ下妻の伸び行く生命である。町の東南に小貝川の流れを控え、西方二キロ余にして鬼怒の清流あり、流域肥沃、縣下でも名高い米麥の産地で、古へ汽車もなく、自動車もなく、鬼怒河畔宗道河岸から東京へ、舟運による唯一の物資集散地たりし頃には、この沼も灌漑用の溜池位にしか考へてゐられなかつた。世を捨てた閑人の釣場位にしか思はれてゐなかつた。

屢々繰返すが世の變遷はすさまじい、常總鐵道が出来る、自動車が出通八達する、時代に貢獻した荷船など一向に顧みられなくなる。そののみか、天地が覆へる程の異變でもなけ

昭和五年	昭和六年	昭和七年	昭和八年	昭和九年
戸數 一、二六五戸	戸數 一、二七二戸	戸數 一、三〇六戸	戸數 一、三五八戸	戸數 一、三七六戸
人口 六、九二八人	人口 六、九九二人	人口 七、一三三人	人口 七、三〇八人	人口 七、四三三人

昭和五年から九年迄僅々五ヶ年間に百一十一戸、五百五人の人が殖えてゐる、僅かのやうだが、たたふべき物産とてもない地方の小つほけな町でこの人口増殖率は決して輕々に見のがすべきものではない、従つて耕地は年々一町歩位つゝヘル、そのへつた耕地は埋立てられて宅地となり、現にこの町の田は八十二町歩、畑は百三十九町二反歩しかない、町だからとはいふものゝ實に素晴らしい發展で、砂沼べりの横濱喜代ホテル支店の如き、全美をつくした三層樓の大建築が毅然として聳え立つたのも、この町の將來を見越して遠大な理想を展べたものと見ることが出来るよう。

しかして澤部町長の理想とするところもまた、この砂沼を活かして、遠く東京、横濱方面から迄觀光客を誘引し、町の發展をはからうとするにある。

砂沼は周回一里半、結城郡下八百余町歩の灌漑に供する江

れば、あの川の水が濁れるやうなことはよもあるまいと信じてゐた彼の鬼怒川が、改修によつて結城郡大形村地先から新らしく川が掘割られ、鬼怒流域の一名勝として、又往昔文化の先驅をなした宗道河岸は潰えてカラ堀になつてしまつた。巨萬の資を投じて數年前新設した鬼怒川橋はカラ堀の上に架つてゐる、まことに乃木將軍の山川草木轉荒涼の感なき能はずだ。かくて舟運は完全に封じられた、他に町特有の物産とでもない下妻の生命線は疾うに斷たれてゐる。

かうなつて來ては下妻たるもの、物資集散地などと昔の宿場氣質で安閑としてゐられない。潑刺たる事業慾に燃えてゐる澤部町長が

砂沼を活かして

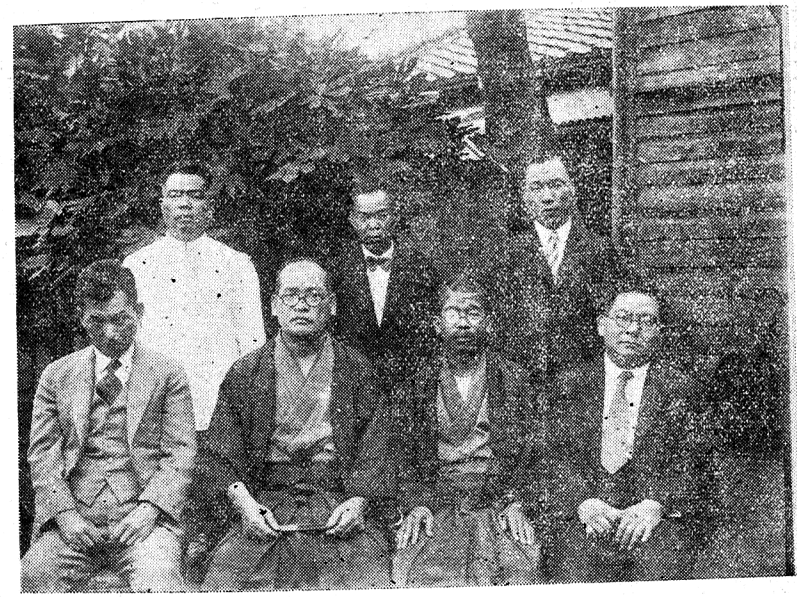
町を伸さうとプラン

を立てるに不思議はないのだ。

發展工作の第一案は、砂沼の西側に護岸工事を施し、名所愛宕山神社迄坦々たるドライブ道路を設け、梅に、櫻に、桃に、楓に四季をり／＼の風情をそへて旅人を引き寄せせる第二、八幡神社で知られた大寶、戰捷の神として名高い千勝神社と連絡をとり、砂沼に引き寄せた客を大寶に、又千勝におくる、更に大寶、千勝を目ざす遠來の客を砂沼に廻はすといふ妙案である、

●第三には、前述の如く鬼怒川の改修によつて新たに生れた新川に近く架設竣工すべき新川橋を利用し、下妻から岩井、野田を経て東京に通ずる最短距離の自動車道路を開設し、下妻東京間を一時半位に短縮させ「ドシ」都人士を迎へ入れることにする。

沼に頼つて、水の都で將來を生きようとする下妻はこの三大計畫の實施と、横斷大道路を上町のカーブから現在の役場の處へ貫つ直に貫通して街並を整へ、以て交通上の危険を防止するの案を役場の移轉と共に直ちに實施しようとする目論んでゐる。この案によると今の三道路がらよつと裏通りになるやうに考へられ一部



氏信元部澤長町・氏行友山口山役働・氏郎次善山外役入收リヨ右列前【眞寫】
員吏八他其・氏郎一丈岡富記書 服白端左列後 氏一訓譯小記書任主計統

に反對もあるやうだが、いはゞ人道と車道とが劃然と區別されるやうなもので、裏通りになつたからとて町の盛衰には大して影響はないのぢやあるまいか之が實現されるものなら下妻の本通りは一直線にそれこそ見事な街並になるであらう。然らば實現は何時の頃か。現在の役場は明治二十六年の建築にかゝり、昔鳴らした西町の突き當りで、あの邊切つてのモダンな廳舎であつた。附近には當時、常總俱樂部などいふ結社があつて政客の來往繁く自由民權論は盛んに唱道された。その頃の下妻役場である總二階の西洋館はたしかに人目をひいたであらうが、中へはいつてみると、二階

の町會議場など床から天井迄の高さ一間、少し脊の高い人は體をこめて歩かなければならない、そこへ十八名の議員さん達がゴチャ／＼並んで、そこは古へ自由民權の盛んなりし土地だけに侃々諤々の議論多く、

卓を叩き足を踏み

鳴らして町政を論じ

合う、階下の事務室は砂ほこりが落ちる位はまだしも、床板が落ちさうでおぢ／＼、仕事が出来ない、時に熱し來つてゼスチャーよろしく、拳を高く差しのべる者でもあらうものなら天井板がメリ／＼する。以て一般を察知すべく、春風秋雨四十年、この狭い不便な廳舎に忍びつゝ、年々幾何の積立をなし、本年停車場通りに二萬圓を投じて新築の工を起し今秋竣成の豫定である、新廳舎は總建坪百二十坪で下は事務室に町長室(八坪)、應接室、上は會議室と貴賓室其他にわけた。新築早々、之が記念に同地方の統計研究會を開く豫定になつてゐる。

町長澤部元信氏は縣會議員として夙にその才腕を知られてゐる、助役山口友行氏は多年役場にありて事務に堪能な人、收入役外山善次郎氏は慶大理材科出の新人、學事主任書記富岡丈一郎氏は下妻中學を出で、米國に研學數年、是亦地方の役場などには勝ち過ぎたほと人物だ、かうした人材揃への

處に、我が統計主任小澤訓一氏は同地の名門に生れ、東京に遊學多年、嘗て友部種畜場に農林技手を勤めたことのある若き潑刺たる才人、父君の逝去により職を罷めて自宅にかへり昭和五年から役場に勤務し、同七年から統計事務をみてゐるが、現在では統計の外に收入役代理、財務、勸業、農會それに、現に工事中の役場建築の監督、選舉肅正係等あらゆる方面の事務を兼ね、よく町長を補佐して頗る多忙な日を送つてゐる。それでゐて「グン」と成績をあげ、就中統計については日尙ほ淺いが農業技手として鍛えた腕を揮つて、調査員を勵ましつゝ、不斷の努力を拂ひ、季節には役場内に調査員を集めて調査資料を持寄り、足らざるは互ひに補ひ、疑義があれば研究し、期日の嚴守等についても一同胸襟を開いて懇談し、不十分なもの、不完全なものがある時には調査員同志で『〇〇君の方はアソコが思はしくない』とか『××君はもう少し期日を守つて貰ひたい』とか『□君の方法は大變いと思ふ』とかいつたやうに卒直に言ひ合つて

採長補短の實をあげ

そこに共同一致の美德

を發揮してゐる。
現在活動してゐる調査員は

早乙女豊 治氏 (三五)
 早乙女榮三郎氏 (四二)
 藤倉 熊 吉氏 (三九)
 萩原 末 吉氏 (四六)
 萩原 喜三郎氏 (七〇)
 鐵羅 吉一郎氏 (四七)
 宇梶 卯之助氏 (五七)
 吉井 宗次郎氏 (六〇)
 山口 一 郎氏 (五〇)
 香丸 金次郎氏 (四二)

以上十區十名で多くは大正十五年以來勤続し、山口氏は消防副頭、萩原末吉氏は町屈指の大地主、吉井氏は町會議員その他は農會總代若くは農事改良員といふ何れも地位名望ある人々で、よく統計の重要なを理解し、小澤主任と協決してその完璧を期し、めき／＼と成績をあげた。

即ち最初下妻の統計は、優良なる大實を近くに控へながら騰波ノ江と共に郡内でも最も好ましくからぬ状況にあり、昭和二年頃の成績簿を見ると

『調査員の設けもあるも有名無實の状態なるは甚た遺憾なり』とむごたらしい査閱評が記されてあつた、それが昭和七年小澤氏が主任となつて以來『成績著るしく優秀、他の模範とするに足る、層一層努力せ

を組合長に配つて各戸別に掃立數量、收購等の明細書を出させることにしたことなどで、養蠶家は全部組合に加入してゐるから各戸の掃立數量から收購、繭の賣値迄極めて正確な數字が得られるわけである、一方隔月から發行しつゝある町報を利用して町民に統計知識を注入するなど特色ある努力を拂つてゐる。

最後に下妻の物産について記してみよう。前にも述べた如くこの町には取立て、稱するほどの物産とては何もないといつてよからう、豊沃なる耕地に包まれ、養蠶業また頗る盛んにして、古來それ等の産物は悉く下妻に運ばれてから處分されたといふのだから、製糸工場の一つや二つは現はれて然るべきだが何もない、數ふべきは酒に桐材、製粉、製麵等で酒は『與登川』『澤ノ松』『松風』の三軒で年産千三百五十石此價格九萬二千四百七十五圓、『澤の松』は澤部町長の醸造にかゝるものであるが、是等年産九萬余圓の清酒は他に移出することなく、殆んど地元で處分されるといふから、同地方人の酒の趣味は推して知るべきである。

桐材は多く下駄の甲で年産八萬四千足から多い時になると十二萬足、東京、静岡方面に賣出し、之に加工して塗下駄となり、表付きとなつて再び下妻に現はれ、町をはしめ附近村落の人々が盆、正月の履物に供せられる譯で、日本の絹糸が外國に輸出され見事な織物になつて再び故國に歸ると同

よ』となり、次ぎの年には『他町村の模範たるは欣快なり』と、譽れの言葉によつて飾られてある。この意氣を以て、この調子を以て進んで行つたなら、單に帳簿の上の評語のみでなく、やがて晴れの榮譽を荷ふのも遠くはないであらう。尙ほ前後するが、この町では調査員が協力一致してゐるやうに、町長以下役場員もよく和合し、何事も協心戮力、わだかまりを残さない、統計費などについても小澤主任の希望に任せて極めて順調に運ばれ、數年前迄五圓位の手當で扱はれてゐたものが

現在では二十圓の

手當に米生産手當が

三圓、外に我が『茨城統計』も調査員手帖も町から無代で配付し毎年夏時に開かれる統計講習費も相當に計上して一面調査員の慰勞の意味をもふくめ、指導訓練即ち年數回の打合せ會の費用も定めてある、其他この町の統計事務で、ちよつと他と異つてゐるのは千葉縣下の統計模範村で行つてゐたと同様米生産調査に調査員を二人つゝ組みにして正しきが上にも正しきを期し、數年來これを實行してゐることや、蠶業上の統計を町内十四の養蠶實行組合と連絡をとり、小票の如きもの

様である。

小麦は米と共にこの地方の特産品で品質頗る優秀、今度農銀の風戸支配人等が經營することになつた下妻製粉株式會社において一手に處分され、東京方面へ移出される外、

下妻特産の「うんべ」

となつて祇園祭とか

お盆とか、いはゆる物日の食膳を賑はすか、となつてゐる昭和九年の産出四萬二千貫、この價格二萬七千三百圓とは素晴らしい。菓子は『松皮せんべい』といふのも相當知られてゐる。

更に名高きものに親鸞の遺蹟光明寺あり、七百二十余年前の創立にかゝる多寶院があり、普門寺、光岸寺等大小十數の寺院を數ふるも異とすべく、石堂の『はたる』は光の大きな点で全國に知られ、學徒の研究資料にもなつてゐる。

以上は下妻における最近の觀たまゝを記したものであるがやがて町長の理想が實現され、砂沼を中心に水の都が形成されることにもなれば、その發展は計り知れぬものがあらう。

x

x

x



思ひ設けず飛込んだ 調査員の座談會

大自然に恵まれた麻生の一日

(町の範模計統)

やがて來らん水の都の下妻をたゝへて更に私は、水郷の秋を稱すべく憧れの麻生町を訪ねた。

この日恰も陰曆二十四日、孟蘭盆會にあたるとして、村の娘達がおしやれして三々五々、朝のすがくしい町に趣きをそへてゐた。

役場前で自動車をおりると先頃房總めぐりに同行した統計主任正木邦司氏が出迎へられて『恰度いゝ處です。今二階で統計調査員の座談會をやつてゐますから是非覗いて……』といふ。勿化の幸ひと早速二階へ上つてみると國勢調査員も交つて二十名ばかりが方形陣を作り、町長箕輪喜平氏が座長席に立つて選舉と國勢調査を混淆して法に觸るゝやうなことがないやう懇々と注意してゐるところであつた、時に午前九

時。全員ズラリ並んで傾聴してゐる。聞けばこゝの調査員は常によく時間厳守の範を示し、何かの集りにも九時といへば九時、八時といへば止八時に必ず開會が出来るやうに萬障差し繰つて馳せ參する、普通農村の弊として殊にお盆とか物日とか地方の休み日などには各種の會合が催されるが、遊びがてら行つてみよう位にあしらつて、てんで時間など問題にされてゐないのだが、こゝ麻生の調査員は定刻九時には一人残らず出席して町長さんの挨拶を聴いてゐるのだ、頼もしいことである。

かくて町長の挨拶がすむと、正木主任司會のもとに、直ちに座談會にはいつた。かいつまんで會の模様を記してみよう。

正木主任 わが麻生町の統計が近時漸く縣下に認められるにいたり

ましたのは役場の取扱がいゝからではなく直接その衝にあたる皆様の献身的努力の賜ものでありまして、事務主任の自分といたしましては衷心感謝に堪へない處であります、本日は國勢調査豫習の打合せがありましたので、その機會を捉へてこの座談會を開いた次第ですが統計の重要なことは今更喋々を要しません、既に御承知の如く今日やかましく叫ばれてをります経済更生の基本をなすところの産業の開發、生産物の處理、販賣購入の統制等悉く統計によらねばなりません、大きく申しますれば國の政治も統計から出てゐるのであります統計なくしては何事も出来ません、我々は斯くの如く重要な統計事業に従事してをるのでありますから尙ほ一層力を注ぎ私も皆さんも一身同体、打つて一丸となつて努力し一段の向上を望みたいと存じます、本日は孟蘭盆で折角のお休みの處をお集り願ひましたのも之れがため統計上の一般的事務につき改善したいとかいふやうな点につき忌憚なき御意見なり体験なりを承りたいと存じます、山口政衛さんにお願ひいたします。

山口君 私は統計調査員を長くやつてゐるといふだけで大した経験もないのですが、折角の御指名ですから僭越ながら今日迄の経験と將來の希望、それに受持區域のことについて申上げてみたいと存じます。私は統計にたつさはること約十年になります、以前からみますと調査は大變複雑になつて來ましたが、町當局がよく統計を諒解され優良町村の視察にも出られる、又研究會に出席されました結果を主任から承りましたりして自分の行ひつゝある處と

比較對照し頗る有益であると感じまして視察にも又毎月の集りに

も一回も缺かさず出席してをる次第であります、持區についても毎月といふわけにはいきませんが米生産の如き就中主要なもの、調査があります時には部内各戸のお集りを願つて懇談を重ね調査の徹底を期するやうつとめてをります、私の持區は水産關係が多いのですが、初めは納税關係とみて集りも悪く、思ふ様にいきま

せんでしたが、近頃では私の顔を見ると『あゝ統計だな』といつて進んで申告もするし、會合にも出席するやうになりました。大盛與重君 我々が斯うして集つて研究をするといふことは非常に効果があると思ひます、この座談會なり、各地の研究會なりを一層擴大して郡全体の聯合會の如きものを農閑を利用して開催するやうにしてはどうか。

正木主任 そのことは少くとも年に一回位やつて貰ひたいと思ひまして郡の研究會から縣の方へも願つてあるのですがまたその運びに至りません縣統計協会の創立につきましても我が行方の研究會が與論喚起の一役を勤めたことは皆様も御承知の通りでありますかういふ次第で唯今の御意見も縣の方へ申上げることにはいたしませんから聽て實現されるであらうと存じます。

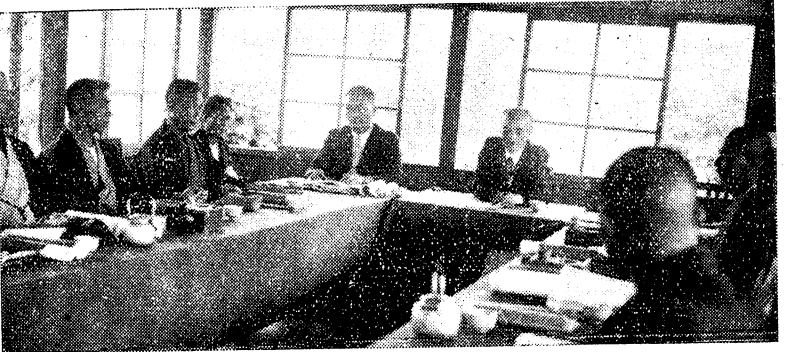
諏訪與助君 統計思想普及のために町勢要覽の如きものを全戸に配付したり、活動寫眞等をやつたりしたら如何でせう。

正木主任 町勢要覽を毎戸に配るのは大變結構なことでも當局でも考へてをります、それもあまり委しいのになるとよく見ないから町の人口は幾何、米の生産高は幾何とかいふやうに來客がありましても、又自分がお客に行つた時でもお話の材料になる程度のもの

は町民誰もが知つていた。さういふ考へて是非實行したいと思つてをります。

千根晟君 統計が課税に關係があるといふ考へはなか／＼ぬけない、例へば米生産の如きも生産者が一番よく知つてゐる筈なのですから生産者が進んで正直にいつてくれればよいのですが、どうもまだソコ迄いかない、つまり統計思想の普及徹底せぬゆゑんで、これは直接事務に當る我々から折にふれてわかり易く説明するより外ありません。

とて『茨城統計』五月號に掲載した關本町長池田穰氏の『統計普及と數の觀念』を



【眞寫】座談會の光景を正面から右へ左長町輪箕正木主任

引用して説くところあつた。

齋藤久雄君 縣統計協會の雜誌『茨城統計』は調査員にのみ配つてゐるやうですが、あれを町民一般に讀ませることにすれば私達が調査するにも大變仕事がしやすいと思ひます。

正木主任 『茨城統計』を各戸に配るといふのは至極結構なことですが町の財政が許しませんので十年度には遺憾ながら御希望に添へかねます何れさういふことになる時期があらうと存じます。

齋藤君 米生産の如き大きな調査のあります時には、その直前に宣傳マツチでも配つたら効果があると思ひます。

男庭善野右衛門君 マツチへ統計に關した流行歌でも入れたら一層よからうと思ふ

正木主任 誰か皆さんの中で宣傳の浪花節でも作つてくれるといふのですが、一体統計といふものは地味なものだから説明する方は随分熱心にやつても聴く方がサツパリ熱心にならないので困る、浪花節でも出来て朗かに聴いてるうちに成る程と考へさせるやうなものなら非常によからうと思ふ

山口君 統計協會の雜誌はせめて農家組合位迄には讀ませることにしてはどうです。

正木主任 成るべくさうしたいと思つてゐるが何分にも財政が……男庭君 穀物検査の雜誌のやうに勧誘して賣付けたらどうです、月十錢とは實に安い雜誌ですよ

正木主任 簿冊の改良整理について御意見を承りたい何回もいふやうですが統計はちよつと一般には趣味のないものですから簿冊の編纂でも氣持ちよくしておいて第一印象をよくして誰でも進んで

見たがるやうにするのが必要です、米の生産調査について見取圖とか坪刈の方法とかにつき大盛さんに伺ひたい

大盛君 現在の見取圖では耕作者が變る毎に引抜かねばならぬ、一枚を一筆と限つてカード式のやうにし耕作者が變つたら差しかへることにしてはどうか、又作柄をば圖面へ直接に書き込まずに符箋でもつけて何年も使用に堪へるやうにしてはどうでせうか

正木主任 縣の方針は符箋することになつてゐるのですが、それは獨り集計がや／＼こしくなつて取扱に面倒を來たすので、當町では獨り耕作者別にしたわけです

大盛君 藤上龜壽君 坪刈は最寄の調査員の立會を願つて場所を三ヶ所位選定してやれば間違ひはありません

箕輪町長 生産高の調査についてはいろいろ皆さんも苦心されてゐますが實際的の計算は普通農家ではしてゐないのぢやありませんまい、餘程の精農家でなければ何石何斗收穫と判つてをりますまい、大体におきまして皆さんの御調査の結果で間違ひはありません

茲で町長は長時間の熱心な研究を謝すると共に國勢調査に萬全を期するやう繰返し希望を述べ更に選舉と國勢調査を混淆し反則するが如きことなきやう特に留意を促すところあつた。

- この座談會に出席の同町統計調査員は
- 志村新吉
 - 柳町盛國
 - 諏訪與助
 - 山口政衛
 - 大盛與重
 - 立原善雄

齋藤久雄 永作久兵衛

藤上龜壽 男庭善野右衛門

高崎寛次 千根晟

の諸君で、何れも町の中堅人物である、しかもこの町的人物として尙ほ數へあげるならば

時めく鐵道大臣

をはしめまことに多士濟々、清明の風光と共にいと華かに、麻生は先づ是等の人物に大いに惠まれてゐるといつてよからう即ち我等の大臣内田信也氏はこの町の出身にして、往年大臣を目指して豪華なる政戰の第一歩を踏み出したのは此處だ、行鹿の山河ために悉く靡いて衰まじかりし勝鬨の音色は今も郷人の腦裏に浸み込んでゐることであらう、町會議員には縣下屈指の大地主先きの長者議員高崎三重郎氏があり、縣會議員の小沼哲雄氏があり、民政黨の長老立原鐵太郎老がある、是等の人々の間に伍して統計調査員諸君は或ひは區長たり、或ひは農會代表たるなど押しも押されぬ存在をなして麻生町自治のために貢献してゐる、町長箕輪喜平氏は永く行方郡役所に勤めてゐたが大正十五年七月麻生町助役に就任、昭和七年町長に擧げられた、謹厚溫和の好紳士で町民から慈父の如く敬はれてゐる。助役は目下欠員、收入坂根本美雄氏亦堅實に町の經濟を切りもりしてゐる、統計主任正木邦

昭和八年五月二十三日

事項

- 一、市町村統計費補助増額の件
- 一、統計調査員待遇向上の件
- 一、縣統計協會設立の件

各郡また此の趣旨を賛し全縣下研究會長の名を以て縣當局に促進運動を起し、縣當局の周到なる用意と合致して本縣統計協會の創立を見るに至つた次第である。斯くの如く思慮遠大の正木氏には一面貴ぶべき創作的の閃きが豊富に養はれてゐる。町の調査區見取圖の如きも氏の獨創になるもので各調査區毎に簿冊を分け耕作人毎に一枚つゝの彩色せる見取圖を筆別に作り、反別、作柄等を記入し、誰が繕いても一見して何の誰方の耕地は何處に幾筆あつて、九年度には幾何の收穫があつたといふやうなことがハッキリとわかる、集計にも便利であるし

町勢を知る唯一

の基本簿ともなる調査員は毎年之を一冊つゝ自ら筆を執つて作製する事に實によく習慣つけられてある、それもこれも正木氏の指導宜しきを得てをるからで、調査員會は毎月開いて

司氏は箕輪町長が郡役所に在る頃共に郡役所で働いた人で役場にはいつて満七年、ガツチリしたその体軀が氏の全貌を物語るやうに、極めて健全なる思想を持ち頭腦明晰、思慮深遠事に當つて動ぜず、過たず、統計主任には最もふさはしい人物、女房役を持たない

町長のよき輔佐

役として無くてならぬ人となつてゐる。氏が統計に就ての經驗は大休座談會における司會ぶりで窺ひ知ることが出来るが氏は夙に統計の刷新改善に意を注ぎ、統計思想の普及に努力し、現に統計協會行方支部の幹事といふことになつてゐるが事實同郡の統計を指導してゐるのは正木氏であるといつても過言でなからう、今回の國勢調査についても、極めて判り易く注意を綴つて町内に配付すると同時に、郡内各町村にもはかつて之を郡内一般に配ばらせることにした。昭和八年五月二十三日同町に行方郡統計大會を開催さるゝや、率先奔走して満場一致左の決議をなし、之を各郡研究會に呼びかけた。

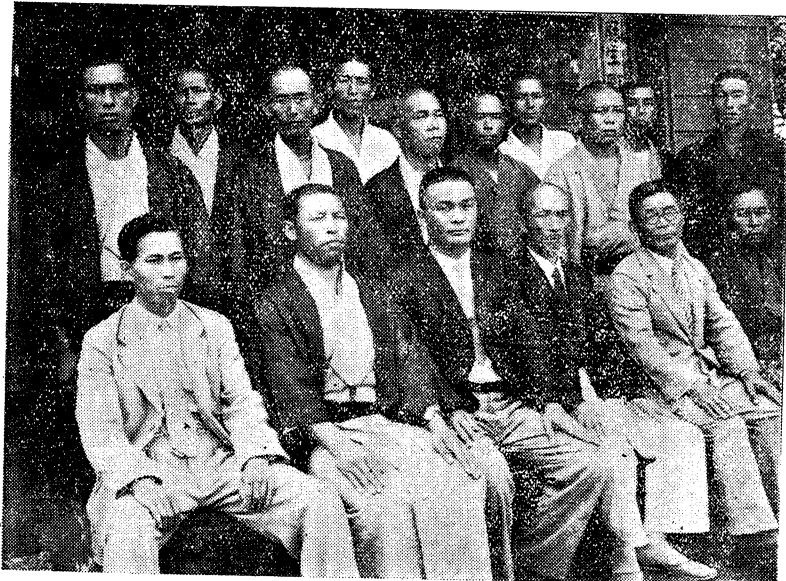
決議

諸般の施設企畫の根底は統計の刷新改善にあり統計智識の普及は寔に緊要なるものと認む仍て統計機關の充實整備を圖らんが爲左記事項の方途を講ぜられんことを希望す
右決議す

腹藏なき意見を交換し、親睦融和をはかりながら互ひに連絡をとり、研究を積んでいく、『斯く申しては失禮ですが調査員諸君はほんたうによく働いてくれるから我々は全く幸福です、何事でも自分の手足を動かすやうに活動してください』と正木氏は感激に充ちた、面持ちで語られた。

かく調子を揃へ、眞に一身同体となつて眞剣に活動されるから成績はますますあがる。しかも麻生町だけでなく、之を善隣に施し、相共に國家の重要事業のために良果を収めやうとするとるところ大いに賞揚すべきであらう。

麻生町は南面一帯約一里霞ヶ浦に沿った水郷の名地



【明説眞寫】前向つて右より三目町長箕輪嘉平氏・同目統計主任正木邦司氏其他統計調査員

であるだけに二百七十二町六反余の水田を有し米の産額は旱害に悩まされた昭和九年ですら六千餘石に達してゐる。こゝに不可解なのは名だたる水どころで、四時滿々たる湖水をたゞへ、水を枕にしてゐるのだから水害こそ想像されるのだが、何時も旱害に苦められることだ、昭和七年の大旱害には百二十町歩が枯死無毛の地と化し、同九年にも七十町歩から無收穫状態の惨状を呈した。その結果旱害豫防の種々な工作も施され一方二毛作も奨励されてゐるから漸次この惨害も緩和されるであらう。次は水産で、ワカサギ、白魚、ウナギ等九年度には五萬一千九百五十三圓の産額に上つてゐる、ワカサギは生のまゝ土浦に運ばれ土浦名産焼ワカサギとなつて賣出されるさうで町では折角の名物入様の名で賣出されるのは強腹だ、何と

かして町直接に賣出したいと案を練つてゐる、この地方また竹細工(ザル、養蠶カゴの類)の産出多く年産二萬餘圓を數へてゐる、現在戸數八百二十四戸、人口四千五百八十三人、内自作農四十二戸、自作兼小作百七十八戸、小作百七十七戸商業百二十九戸、漁業七十二戸其他二百七十七戸富の程度が高

懐る具合もよく

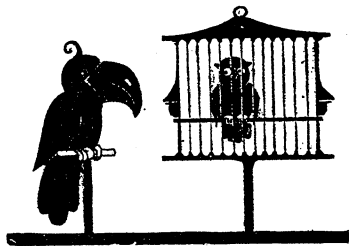
昭和六年には國稅完納二十年で稅務監督局から表彰され、現在でも他へ轉住者が稅金をそのまゝにして行く位が滯納の部にはいつてゐるだけで町永住者には一文の滯納もない——が如何に裕福だからとただそれだけで甘んじてゐるわけにもいれない、隣接潮來の大々的な觀交客吸引策に引きずられて麻生でも此程觀光協會を作り天然の風光、就中天王崎一帯の

景勝と指呼の間にある浮島の神秘郷とを呼物に、都人士を招き、一方また流行の小唄でも作つて大いに宣傳しようとする、湖畔に立てば神秘の浮島は、呼べば應へん。島の名物バンガローは手にとるやうに見える、このバンガローといふのは印度ベルガル地方に特有な住家をそのまゝ茲に移したもので、草葺きの原始的な構造が都人士の趣向に投じて非常に歡迎されてゐる、現に夏中多數の東京人がこの島に生活してゐるのだから、之を誘つて麻生に眞の水郷美を味はせることは敢て難事でもあるまい、小唄が出来れば歌入りのマツチでも作つて大いに宣傳につとめるさうで、マツチの宣傳では先年米生産統計調査に之を考案し、よき思ひつきとして好評を博してゐる、何しても秀麗なる大自然の佳景を有つ麻生の前途は、更に之が利用の方法如何によつて、層一層惠まれに違ひない、幸先きを祝つて擱筆する。

關東府縣 統計事務協會議

關東區一府八縣の統計關係者が協同して統計事務の刷新改善を目的として組織せられた同協會議では今回の國勢調査事務打合會を機會に愈第一次協會議を七月五日宇都宮市商工獎勵館に於て開催の運びにいたつた、當日本縣よりは川崎統計課長、虎口屬出席、午前十時山縣栃木縣總務部長の開會の辭について萱場同縣知事の挨拶があり直に各府縣提出事項の審議に入り午後四時閉會、翌六日は内閣統計局より出席された高田人口課長の國勢調査に關する注意並本年實施せられる國富及國民所得調査に就ての説明協談あり午後三時終了した、本縣より提出した事項は次の如くで次回開催地は埼玉縣の筈である

- 一、農作物の被害調査費の交付方要望の件
- 一、農林省統計報告規則様式中改正方の件
- 一、工場調査票様式改正方の件
- 一、學齡簿の整理監督に關する件



實務道場

統計調査の葉 [5]

☆……統計が進歩し統計が利用されることに

☆……よつてはしめて完全なる國策は生れる

柿やリンゴの調査に就て……

— 調査員諸君に御注意 —

残暑尙厳しき九月のなかば、冬期調査の注意とはチト其の時期では無いが、果實中のカキ、リンゴ、ミカン等の如く次號發行の十一月十五日迄には既に收穫を爲すものもあるもので特に本號に之れが注意を掲載すること致します。

カキ、リンゴ、ミカンの果實調査に當りては果樹園をなして居るものは、果樹園調査原簿に依り、果實調査票(果樹園の部)に字名、地番、調査原簿面反別を記載し、冬季の欄に右果實の種類を記載し、其栽培反別、樹數、收穫高を調査するの

であります。

但し同一地に春季、秋季の孰れかに屬する果實の植栽しある場合には既に之が調査票は作成してあるから、此の票の冬季欄に記入すれば宜しいのであります。

又果樹園以外のものに就ては一人毎に果實調査票が出来て居るから、其の冬季調査の欄に記入するのであります。

然して樹數の調査は結實の樹齡に達したるもののみを調査するのであるが此の場合には收穫皆無のときと雖も總て調査

する必要があるのであります。

〔米第二回豫想收穫高〕

(市町村報告期十一月三日限)

本調査は十月末日現在に依り調査の上十一月三日迄に本廳へ報告書到達する様進達することになつてゐますから報告期日を誤らぬ様特に注意を願ひます。

豫想收穫高の調査方法は米第一回豫想收穫高と同様でありますから本誌七月號を参照せられ取扱ひを願ひます。従つて説明は省略いたします。

備考欄へは米第一回豫想收穫高に比し増減の事由を數字を以て記載するの外に氣候の適否、用水の過不足、施肥の多少、發育の経過及病虫害風水害等の有無を必ず記載して頂きます。

〔園藝農産物蔬菜及花卉ノ二〕

(市町村報告期十一月十五日限)

本表はインゲンマメ、キウリ、シロウリ、カボチャ、スイカ、マクハウリ

ナス、トマト、ハナユリ(花百合)等についで調査員が其の作付反別を夏季調査として七月から八月に涉つて調査したものを集計表に纏めて提出したものに依つて調査するものであります。

インゲンマメは未成熟のものを莢の儘食用に供するものが相當多いのですが、これは成熟したる時の數量に換算して石を以て算出計上することになつて居ります。

ハナユリは専ら觀賞用に供せられるものでありますから、花を目的として賣却することの出来る様な成育を遂げた第二年作の收穫數量を調査すべきもので作付反別の計上も亦同様の方法に依つて取扱ふのであります。

〔人口靜態統計表に就て〕

(市町村報告期十一月二十日限)

毎年十月一日現在にて調査せらるゝ人口靜態統計表は大正十一年十二月本縣訓令甲第三十七號人口統計材料表

取扱手續に依つて本籍人口を戶籍簿で調べ、尙其の外出入寄留者は公簿の外實地に就いて調べ、在陸海軍部隊艦船者、在監者、内地外又は外國居住者若くは所在不明者などで十月三十一日までに判明せる者を加除して調べるのであります。

本表「出の部」は本市町村の本籍人口中本市町村外に在る者の數「入の部」は本市町村内に本籍を有せざる者について本市町村に寄留する者の數を調査の期日に於ける現在に依つて其の十月三十一日迄に知り得るものを調べるのであります。本市町村に住所寄留をなす者で更に他市町村へ住所外寄留を爲す者は本表中何れの項へも計上せず「附表第一」へのみ計上するのであります。在陸海軍部隊艦船は現に入營中の者及陸海軍學校生徒を計上するのであります。在監者は受刑者刑事被告人留置場拘留者などを計上するのであります。在樺太は同島中帝國の領土に居住するもの

を掲げ露領にあるものは在外國に掲ぐるのであります。關東州は旅順金州大連の三民政署管内に在るものを掲げ他は外國に掲ぐるのであります不詳は未だ除籍の濟まない行衛不明又は失踪の

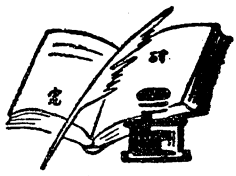
様なものを掲ぐるのであります。道府縣外よりの欄に記入した數字は更に「附表第二」へ再掲するのであります。現住人口は本籍人口に本市町村へ寄留者を加へ出の部總計を除きたるもので

あります。現住戶數は一世帯をなす竈數で戶籍に依る戶主數ではないのであります尙備考には調査の方法及前年に對比し著しき差異のあるときは必ず備考に具體的説明せらるゝ様せられたい

國富及國民所得調得

内閣統計局では本年十二月末日現在に依つて國富及國民所得調査を本縣外三十三府縣に對して標本的實地調査を施行することになつた、本調査は昭和五年既に他府縣に於て調査されたのであつたが本年は新に本縣も該當縣に加はることになつたのである、本縣への配當世帯總數は千百八十八世帯で種類別にすれば農業七百四十五、水産業三十三、工業百二十七、商業百六十三其他百二十で調査すべき事項は左の如くである

- 一、國富資料
- 1、耕作反別
- 2、住家
- 3、附屬建物延坪數
- 4、年末現在手持産物價額
- 5、家具家財
- 二、國民所得資料
- 1、一ヶ年間の生産物
- 2、生産に要する經費
- 3、一ヶ年間に於ける生産物の販賣高等



統計相談所

統計に關し疑問なり又は不明な点がありましたら、御問合せ下さい。誌上にて丁寧にお答へ致します。

草耕作の關係により早期刈取をなし收穫皆無同様のものがあります、此の場合の處理伺ひたし

(答) 收穫皆無同様と云ふのは少し極端でせうが兎に角收穫の状態に依り作柄を訂正するのです

(問) 春蠶給桑に關し他町村より桑葉を購入し給桑に差支なく飼育したる場合春蠶表備考の四は桑葉不足とするものか又は過不足なしとするものなりや

(答) 桑葉不足とし其の状態記入の事

春蠶表

(問) 甲乙二者の掃立したる後の蠶種を丙は掃立し相當の收穫量を見ました、丙の掃立蠶種互數調査に對しては如何にすべきか、勿論甲乙二者の一瓦當りの收穫量相當あります、又蠶作不良にして投蠶すべき蠶兒を貰受けて飼育する者も一戸の養蠶家として調査すべきでせうか

(答) 甲乙の掃立數量を控除し丙の掃立數量を加ふるを可とします 後段見解の通りです

全 全 中作一石二斗
全 全 下作八斗

(答) 各調査區毎に一段歩收穫高を決定すると收穫高を算出するのに非常な手数を要しますので、各區の平均(全村の收穫高を得るのに適當な反收)を合議決定することに規定してあるのですが各調査區毎でも結構です、尙調査に當り上、中、下作の標準を決定し之に當はめて調査すれば本問の如き反收は生じません

(問) 春季調査に於て大小麥の上作地として調査しましたのに米國種葉煙

一反歩收穫高決定に就て

(問) 本件に關しては縣より屢々指示注意せられ從來調査員會に於て各種農産物反當を合議決定し來ましたが左記の如く著しき反當相違する場合合議によらず各調査區毎に一反歩收穫高を決定する方が妥當と認められます如何でせうか

甲調査區大麥畑反當上作二石五斗
全 全 中作二石
全 全 下作一石五斗
乙調査區全 上作一石五斗



優良町村視察

◇……口繪の寫眞参照

各地統計調査員の優良町村視察は一層多きを加へ、熾烈なる研究慾に燃えつゝあることは眞に喜ぶべき現象で、是等視察により何れも好ましき良果を收め改善の跡見るべきものがある、巻頭口繪寫眞の如く

▲筑波郡小張村統計調査員は平磯に開かれた講習會に出席の歸途七月三十一日統計主任山口書記に引率されて縣統計課並に貴賓室等を視察

▲久慈郡賀美村は夙に統計模範村として知られてゐるが尙ほこれに満足せず、益々研究を進め七月二十五日には助川助役及び助川統計主任をはじめ調査員一同、調査員服にゲートル姿で那珂郡佐野村を視察し、更に縣統計課を訪ね、農人形前に記念撮影して引きあげた

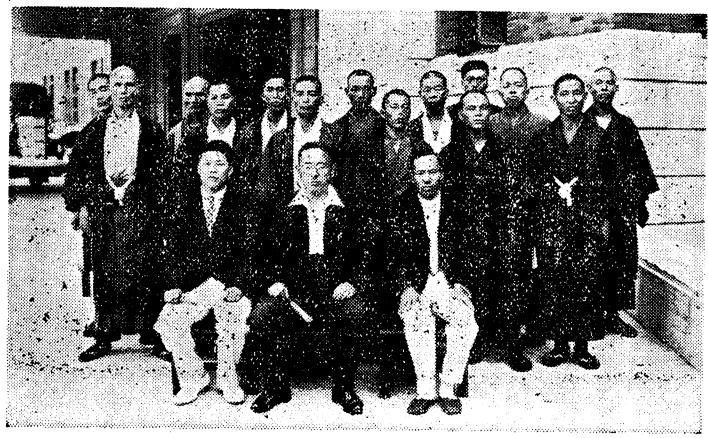
▲眞壁郡河内村統計調査員は杉山助役、

杉山主任書記に引率され八月十二日模範村視察かたゞ縣廳や市内を見學した

▲筑波郡眞瀨村統計調査員は七月二十九日同村小學校長田中守三郎氏(寫眞前列左から三人目)助役山田泰次郎氏(同四人目)統計主任宇津野書記(同左端)等と共に多賀郡河原町を視察、縣廳に立寄り統計課小林屬及び郡擔任岡崎主事補等と協會のカメラに収まり市内を見學した

▲新治郡榮村調査員は七月五日村長片岡千次郎氏及び豊島主任に引率され那珂郡佐野村を視察し歸途縣廳を見學した

▲北相馬郡高井村では七月十八日村長宮本茂重郎氏が先頭で野口統計主任書記以下統計調査員一同、是れまた那珂郡佐野村を視察、清水村長や根本主任から種々聽取して縣廳を見學した(以上口繪寫眞参照)



の案内で廳内を見學後、協會のカメラに収まつて歸村した、茲に掲ぐる寫眞が即ちそれで前列向つて右渡邊屬、次が川崎統計課長

け書に直正りよく書に手上

日一月十年十和昭
書告申査調勢國

世帯 番号	世帯 長	氏名	性別	出生年月日	婚姻関係	本 住 地	内閣統計局													
							一	二	三	四	五	六	七	八	九	十				
		(4) 氏名	(5) 性別	(6) 出生年月日	(7) 婚姻関係	(8) 本 住 地														

昨日来て明日行く人も数に入れ

子澤山落ちはないかと考へる

たいっ近は切締賞懸

國勢調査による
本縣の人口豫想

第四回目の國勢調査はいよいよ十月一日を以て行はれ、昭和五年の國勢調査後における我國の人口及び人口の構成が如何なる推移を辿つてゐるか、我が國勢が如何なる動向を示しつゝあるか、この調査によつて明確にされる譯であります。

殊に今回の國勢調査は、方今の國狀に鑑みましても、極めて重要な意義を有するものでありますから、一層心して國家的大業の完成に努力せねばなりません、然らば我が茨城縣では既往五ヶ年間に如何なる變遷を來したてでありませうか、人口はどれ位殖えたか、又減つたか、國狀の推移變遷と共に、縣民全體が關心を持つところの頗る興味ある問題とされてゐます。

即ち前三回の國勢調査によつて調べあげられた本縣の人口は

大正九年	一、三〇〇、四〇〇人	二、一、三六八人
全十四年	一、四〇〇、五〇〇人	一、五〇〇、二〇〇人
昭和五年	一、四七〇、七〇〇人	一、五〇〇、二〇〇人

であり、其の後の製糸、炭業不振に依る影響はどうか、人口の自然増加及歸農者と軍需工業の活況に依る増加はどうか、それ等の觀察の如何に興味は集中される譯であります。しかして昭和九年十月一日現在を以て、別な調査方法を以て調査しました百五十七萬二千八百二人に比較してどんな結果を得るか、之は十月一日午前零時現在の調査によらねば神様でも判らないのです。之を左記規定に依つて皆さんと共に豫想したいと思ひます。「はがき」一枚で済むこととす、奮つて應募されたい。

應募規定

- 一、問題 昭和十年十月一日の國勢調査に依る茨城縣の人口
- 一、應募 一人一枚
- 一、期限 昭和十年九月三十日限り
- 一、用紙 「郵便はがき」にて住所氏名を明記すること
- 一、宛名 茨城縣廳内茨城縣統計協會
- 一、賞 拾圓 一人
- 二、等 五圓 二人
- 三、等 參圓 三人
- 等外 十人
- 一、審査 (1) 審査長は統計課長とし、同課員を審査員とする
- (2) 審査の結果適中者多數あるときは抽籤により當選者を定む
- (3) 若し適中者なき場合は最も近きものより順次當選者を定め是亦同數者ある時は抽籤による但し差數二千を越ゆる時は入選せしめざることあるべし
- 一、決定人口 内閣統計局の結果速報人口に依る
- 一、發表 茨城統計誌上に於て發表す

- 昭和十年國勢調査は十月一日午前零時の現在に依り帝國版圖内に現在する者に付左の事項を調査するのであります
- 一、氏名
 - 二、男女の別
 - 三、出生の年月日
 - 四、配偶の關係
 - 五、常住地



豫習も好成绩に濟んで 待たるゝ十月一日

六千五百の國勢調査員が 手腕を發揮するのは此時！

國勢調査は着々と事務も進捗して調査係員の打合せも前號所載の如く行はれ調査區の設定も縣から認可され、六千五百六十九人（豫備員共）の國勢調査員は七月二十日付を以て内閣から任命となり徽章と共に各市町村に發送、それ／＼傳達された、續いて申告書其の他の印刷物も連日に亘つて各市町村へ發送せられたので愈々本格的の行動が開始され九月一日の豫習も好成绩を以て終了し、待たるゝは十月一日である、慎重事に當り遺憾なきを期したい、尙ほ國勢調査區及調査員數を郡市別に示せば次の通りで前回に比し調査區數においては十二を減じたが、世帯概數は八千百十九を増した。

郡市名	調査區數	調査員數	豫備員數	世帯概數
水戸	一五二	一五二	三〇	三、五四
東	四八三	四八三	六〇	一、九六
西	二五〇	二五〇	三〇	三、五五
那	四九〇	四九〇	六〇	二、七六
多	四九〇	四九〇	六〇	二、七六
久	四九〇	四九〇	六〇	二、七六
鹿	四九〇	四九〇	六〇	二、七六
稻	四九〇	四九〇	六〇	二、七六
新	四九〇	四九〇	六〇	二、七六
筑	四九〇	四九〇	六〇	二、七六
眞	四九〇	四九〇	六〇	二、七六
結	四九〇	四九〇	六〇	二、七六
北	四九〇	四九〇	六〇	二、七六
合	五、五〇〇	五、五〇〇	一、〇〇〇	二、七六
相	三三七	三三七	六〇	九、一〇
計	五、五〇〇	五、五〇〇	一、〇〇〇	二、七六
馬	三三七	三三七	六〇	九、一〇
鳥	三三七	三三七	六〇	九、一〇
城	三三七	三三七	六〇	九、一〇
壁	三三七	三三七	六〇	九、一〇
治	三三七	三三七	六〇	九、一〇
方	三三七	三三七	六〇	九、一〇
島	三三七	三三七	六〇	九、一〇
賀	三三七	三三七	六〇	九、一〇
慈	三三七	三三七	六〇	九、一〇
珂	三三七	三三七	六〇	九、一〇
城	三三七	三三七	六〇	九、一〇
戸	三三七	三三七	六〇	九、一〇

國勢調査質疑解答

國勢調査に關する質疑解答は七月十七日迄の分は既に之を取纏めて蒐録し各町村並に國勢調査員に對し臨時國勢調査部より夫々配付されたが其の後の分を左に載録して調査に従事する方の參考に資することとする。

一 調査の範圍

問 外國の船舶にして内地港灣に入港手續中調査の時刻を經過し其の後直に入港したる船舶ありたる場合又は不許可の爲其の儘出港する場合は如何に取扱ふべきや

答 前段の場合には施行令第二條第二項に該當するものなるときは調査すべく後段の場合には調査を要せず

問 沿岸各地に寄港する汽船にして十月一日午前零時に乗船し居る者は全部其の汽船にて調査し右時刻を過ぎ最初に入港する港灣の調査員又は市町村長に全部の申告書を提出すべき義なりや

答 御見解の通

問 兩町村の境界線に碇泊したる船舶、舟筏は何れの町村に屬すべきや

答 投錨したる町村に屬すべきものなるも其の判定困難なるときは兩町村協議の上之を定むべし

問 甲村内に乙村の飛地あり其の飛地の地籍は乙村に屬するも住民は從來の慣例上甲村の住民として取扱ひ居るを以て甲村に於て調査するを適當と認めらるゝも如何

答 乙村に於て調査すべきものとす

問 皇族が調査期に御旅行中のとき其の隨員は調査すべきか特別區域たる箇所には在らざる場合は市町村に於て調査す